

インターネットライブ教室による渡日前遠隔教育

森 山 新

1. 実施概要

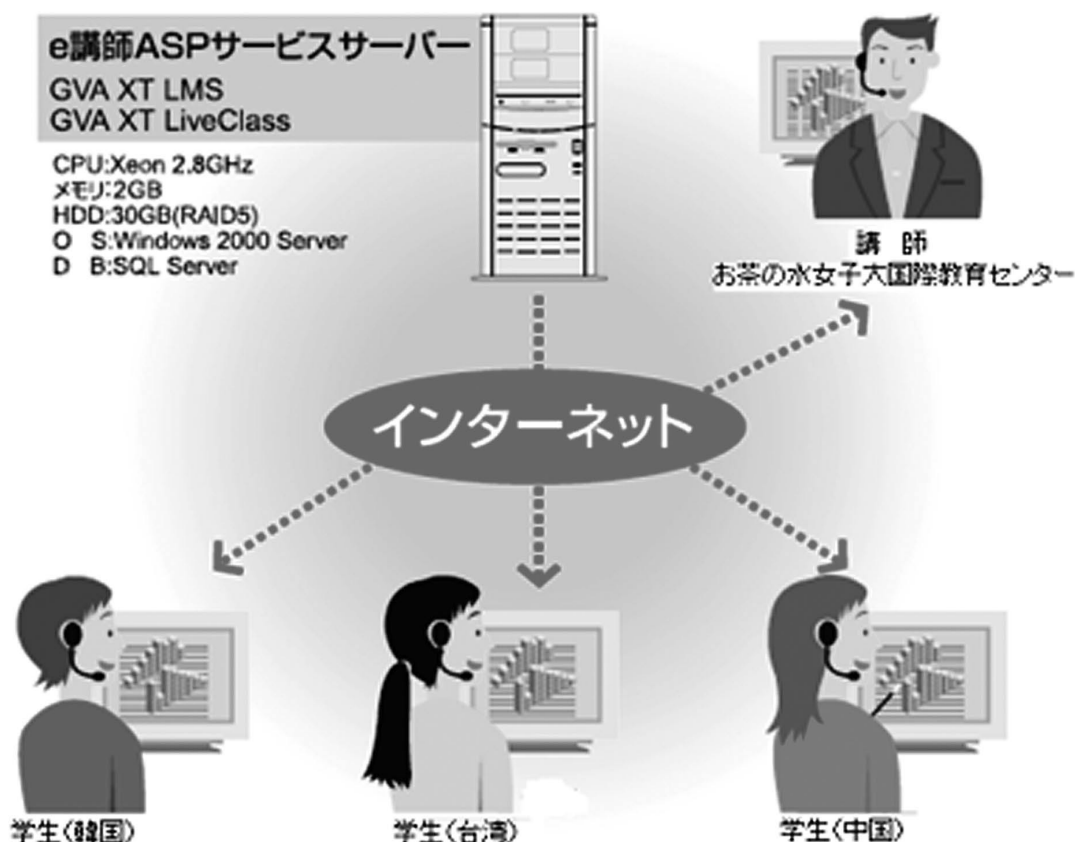
お茶の水女子大学国際教育センターでは、2006年度4月に来日する留学予定学生を対象に2006年3月10日と16日の2日間、渡日前遠隔教育を実施した。4月に新たに来日を予定する学生は、全学合わせて16名（韓国9名、台湾3名、タイ2名、中国1名、チェコ1名。既に来日している学生は除く）で、このうち9名（韓国7名、台湾1名、中国1名）がこの遠隔教育（e-learning）に参加した（表1参照）。

表1 4月来日予定の留学生一覧と遠隔教育参加状況

氏名	国籍	在学身分	参加
A	タイ	学部研究生	不参加
B	タイ	学部研究生	不参加
C	韓国	学部研究生	参加
D	韓国	学部研究生	不参加
E	台湾	学部研究生	不参加
F	韓国	大学院研究生	参加
G	韓国	大学院研究生	参加
H	台湾	特別聴講学生（交換留学生）	参加
I	台湾	特別聴講学生（交換留学生）	不参加
J	チェコ	特別聴講学生（交換留学生）	不参加
K	韓国	特別聴講学生（交換留学生）	参加
L	韓国	特別聴講学生（交換留学生）	参加
M	韓国	特別聴講学生（交換留学生）	参加
N	韓国	特別聴講学生（交換留学生）	不参加
O	韓国	特別研究学生（交換留学生）	参加
P	中国	特別研究学生（交換留学生）	参加

この遠隔教育は、図1のようにインターネットライブクラスを介して行われる授業で、「e講師™ (GVA XT LiveClass、三洋電機株式会社)」(詳しくは三洋電機、凡人社のホームページ「e講師ネット」を参照)を用い、参加者はそれぞれ自分の国の自宅(韓国6名、台湾1名、中国1名)やインターネットカフェ(韓国1名)からアクセスして参加した。

図1 インターネット遠隔教育のしくみ



参加者は、高速インターネット環境、ヘッドホンマイク、PCカメラを予め準備することが求められている。来日予定の16名のうち、参加できなかった留学生7名のうち過半数の4名(タイ2名、台湾1名、チェコ1名)は、これらのいずれかが準備できなかったため参加ができず、1名(台湾)は参加したものの接続がうまくいかず、2名(韓国)は当初参加の予定であったが健康上の理由その他で参加しなかった。遠隔教育は国際教育センターの公式サイト< <http://jsl.liocha.ac.jp/> >の右側に入り口が設けられており、各自に事前に与えられたIDとパスワードを入力して入室する。今回ライブクラスが行われた時には、入室するとオンデマンドの録画クラスが2つ(2005年3月に行われた遠隔教育を録画したもの)とライブクラスが1つ(今回の授業)が開設されていた(オンデマンドとは必要な時にダウンロードして視聴が可能なタイプ、ライブクラスとは、日時を決めて日本から配信した生のクラスに各自が参加するものである)。教育内容は、表2のように、第一に、入国・入寮・入学について扱った「ようこそ日本へ」(担当: 森山、約50分)、第二に、留学生活について全般について留学生の立場から扱った「留学生活」(担当: 洪、約15分)、

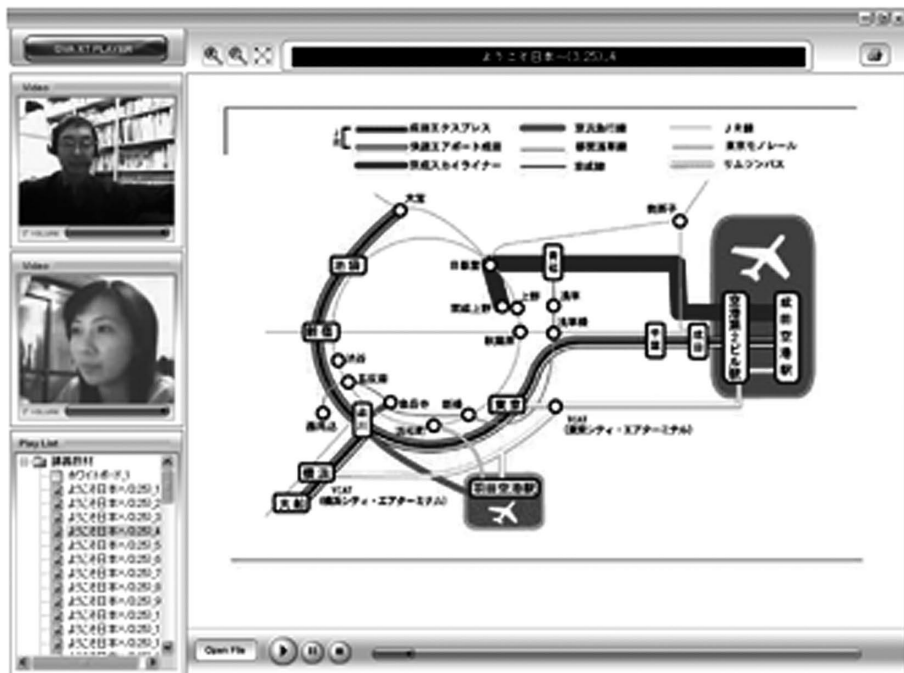
第三に、履修のしかたについて扱った「履修案内」(担当:森山、約30分)の3つの講義から構成されている。画面は図2のように、左上に講師の顔と学生1名の顔が、左下に出席者のリストと、スライドの一覧が映し出され、右には事前にパワーポイントで作成されたスライドが映し出されるようになっている。講師はスライドをめくりながら、講義を行っていく。必要事項はスライドに手書きの書き込みができるようになっている。参加学生は、スライド画面を見ながら、講師の話を聞く。

このような遠隔教育は2005年の3月、9月の実施に続き、3回目となるが、今回は教員(森山)による講義に加え、既に留学生生活を行っている学生(洪)による授業も行われた。なお、今回授業を行った学生は、昨年3月の遠隔授業に参加した台湾の留学生である。

表2 2006年度のライブクラスによる遠隔教育概要

第1回遠隔教育	第2回遠隔教育
<p>日時 3月10日 12:00～14:00</p> <p>参加者 5名 (韓国2名、台湾1名、中国1名)</p> <p>講師 2名(森山、洪)</p> <p>内容</p> <p><出席、接続状況のチェック></p> <p>①ようこそ日本へ：入国・入寮・入学の手続き(森山)</p> <p><休憩></p> <p>②留学生生活(洪)</p> <p>③履修案内(森山)</p>	<p>日時 3月16日 17:00～19:00</p> <p>参加者 5名 (韓国4名、台湾1名)</p> <p>講師 2名(森山、洪)</p> <p>内容</p> <p><出席、接続状況のチェック></p> <p>①ようこそ日本へ：入国・入寮・入学の手続き(森山)</p> <p><休憩></p> <p>②留学生生活(洪)</p> <p>③履修案内(森山)</p>

図2 ライブクラスの画面(「ようこそ日本へ」から)



なお、遠隔教育の効果や問題点を考察するため、授業を前後して1回ずつの計2回、アンケート調査を実施した（＜資料1、2＞を参照）。これは、第一に、渡日前授業を受けることにより、来日に対する不安がどの程度解消されたかを調べるもので、事前、事後アンケートの設問1の14項目の設問に対し、遠隔教育実施前後に2度調査を実施した。回答は1（まったく心配ではない）から5（非常に心配だ）までの5段階で回答してもらった。第二に、今回の遠隔教育の機械操作上の問題や、効果や課題を探るもので、設問2～4のように自由記述をしてもらった（教育前のアンケートでは設問2～4はなく、その代わりに設問2として「そのほかに気になることや心配なことがありましたら、自由に書いてください。」という設問がある）。

2. 実施結果

以下、学生たちのアンケートを集計し、その効果や問題点について分析していく。

2.1 来日に伴う不安と渡日前教育の効果

まず渡日前教育により、学生の不安がどの程度解消されたかについて見ていく。表3は授業に参加した9名のうちアンケートに回答してくれた8名の結果を集計したものである。左側の数値（B）は渡日前教育前のアンケート結果であり、右側の数値（A）は教育後のアンケート結果を表している。右端の欄の「*」、「**」のあるものはt検定でそれぞれ5%水準、1%水準の有意差が見られたことを示している。ライブクラスによる教育前に、学生の不安が少なかったものは「成田から寮へのアクセス」（1.88）、「入学手続き」（2.25）、「入寮手続き、寮の案内」（2.50）などであった。「成田から寮へのアクセス」の不安度が低かったのは、8名中7名までが過去に来日の経験があったためと思われる。一方不安が高かったものは「専門分野」（3.63）、「大学・大学生活について」（3.50）、「履修の仕方」（3.38）などであった。

表3 渡日前の不安に対する渡日前教育参加者のアンケート調査結果

被験者	C		F		G		H		L		M		O		P		平均		
前／後	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	t 検定
準備	4	4	4	1	2	2	1	2	4	4	2	2	1	1	5	1	2.88	2.13	
アクセス	2	3	1	1	1	1	2	1	4	2	1	1	2	1	2	1	1.88	1.38	
寮	2	2	2	1	-	-	3	1	2	3	-	-	2	1	4	1	2.50	1.50	
入学	2	2	1	1	2	2	3	2	2	3	2	2	2	1	4	1	2.25	1.75	
大学生活	4	2	4	1	2	2	2	2	3	3	4	4	4	2	5	1	3.50	2.13	*
履修	4	2	4	1	2	2	2	2	4	3	4	2	5	2	2	1	3.38	1.88	**

日本語	4	2	4	1	2	2	1	2	2	2	2	4	4	2	2	1	2.63	2.00	
専門分野	5	5	4	2	2	2	2	2	2	3	4	4	5	2	5	2	3.63	2.75	
友人関係	2	2	4	2	4	2	1	1	2	4	2	2	4	2	4	3	2.88	2.25	
一人生活	4	4	5	2	2	2	1	1	5	1	2	4	2	2	4	2	3.13	2.25	
指導教員	4	2	4	2	2	2	2	2	3	2	2	2	4	2	3	1	3.00	1.88	**
相談体制	2	1	4	1	1	1	2	2	3	2	4	2	3	3	3	1	2.75	1.63	*
日本語	1	1	4	1	2	2	3	2	2	3	2	2	5	3	4	2	2.88	2.00	

注) 学生のうち G、M は入寮をしていないため、その項目の回答がない。

その他の不安項目には、2名の記述があり、1名（韓国）は「日本語能力試験について」、もう一人（韓国）は「地震」について記述されており、いずれも不安5であった。

次に、遠隔教育前の設問2（そのほかに気になることや心配なことがありましたら、自由に書いてください。）の回答には、渡日前教育の中で扱われている寮から学校への行き方、渡日前の荷物の郵送、入寮手続き、寮の備品などのほかに、地震などの安全情報、物価への不安、ビザ取得までのプロセス、入試情報、課外活動の情報など、今回の遠隔教育では扱っていない内容も含まれていた。以下遠隔教育前のアンケートに記載された内容を示す。

- ・上の「その他」の部分にも書いて入れましたが、私は安全についての情報不足が心配です。地震状況で対処する方法等についてインターネット上で調べましたが、まだ詳しくはわかりません。韓国はあまり地震が発生しない地域なので、私は安全規則についての教育を受けたことが全然ないし、地震についてのイメージさえも持っていません。そのような状況なので、関連情報や教育（があったら）についての案内が頂ければ本当に嬉しいです。
- ・寮から学校まで行く道を詳しく教えてください。ありがとうございます。
- ・渡日前に本などの重い荷物はあらかじめ国際小包で出してもいいですか。私より小包が早く着いた場合、寮で保管して下さることができるか気になります。
- ・日本の物価がとても高いと聞いていますが、生活費に悩んでいないで、勉強に専念できるでしょうか。
- ・寮の中でインターネットができるのでしょうか、また、寮の中に布団等があるのでしょうか、ない場合、自分で買うといくらぐらいでしょうか。
- ・①ビザの手続き、在留資格認定の取得、更新など、②大学院入学試験に関する情報 ③お茶の水女子大学の課外活動団体には、研究生として参加できるか、④寮の申し込み方法並びに抽選時期

次に教育実施後の変化を見ると、全ての項目で、数値が減少しており、教育が不安解消に役に立っていることが示されている。Mは遠隔教育前後で不安の減少が全く見られていないが、これは過去に3年間の日本滞在経験があるためであろう。不安減少が統計的に有意な項目は、「大学・大学生活について」

て」(3.50 → 2.13)、「履修の仕方」(3.38 → 1.88)、「指導教員との関係」(3.00 → 1.88)、「学内の相談体制」(2.75 → 1.63)の4項目であった。

2.2 技術的な問題

次に設問2の回答をもとに、遠隔教育の音、画像、機械操作など、技術的な問題はなかったかについての分析を行う。なお、アンケート用紙に記載された回答すべてをそれぞれの項目のあとに示す。

2.2.1 音

アンケートの記載を見ると、特に問題がなく、よく聞こえたという意見が多かったが、一部、「音声が二重になる」、「先生の音が途切れる」、「自分の声が先生に届かない」、「時々雑音が入る」などの問題も発生していることがわかった。音声が二重になることに対しては、遠隔教育中に、聞き手側のマイク音量をミュート（消音）にすることで解消されている。また音声のトラブルの中には、学生側のインターネット環境によるものもあった。

- ・特に問題なし。
- ・先生の声もよく聞こえ、私の声もよく伝わった。
- ・よく聞こえた。
- ・雑音のあった時もあったが、大体きれいに聞こえた。
- ・はじめは、先生の声が二重に重なって聞こえて聞き取りにくかったが、休憩後、先生が学生側の声を遮断して教育して下さった時はよく聞き取れた。
- ・先生の声は時々途絶えたが、自分の声は先生に伝わらなかったようである。
- ・私のマイクはちょっと問題があったので、声が届かなかった。森山先生の声ははっきり聞こえたが、ちょっと二重音声があった。でも、参加者達のマイクを消したら、問題は解消した。
- ・問題はなかった。

2.2.2 画像

画像の配信、とりわけ講義内容を示したパワーポイント画面については概ね問題がなかった。パワーポイントの内容についてもわかりやすかったという意見が多かった。しかしながら、映像が途切れたり、遅れたりしたこともあったようである。また教育には直接の支障はなかったが、教師や参加した学生の顔が映らなくなったことも時々あったと報告されている。

- ・特に問題なし。
- ・映像、パワーポイントはよく見えた。しかし時々映像が途切れその点が不便だった。私の顔が映っていなかったのではないかと思い、それが残念だった。
- ・パワーポイントも画面もよく見えた。
- ・少し、遅くなったり、動かなくなったりしたが、大きな問題ではなかった。
- ・画面上の先生の顔もよく見えた。パワーポイント資料も簡潔で見やすく整理されていて、理解する

のに大きな助けになった。

- ・資料はよく見えたが、先生の顔はあまり見えなかった。
- ・パワーポイントはよく見えた。でも先生の顔は途中切れてしまった。原因は多分インターネットの問題だと思う。

2.2.3 機械操作

2名の無回答を除き、全員問題ないと回答しており、当初心配されていた機械操作に関する問題はあまり起こらなかった。2005年3月に実施した第1回のライブクラスのときには多少の問題が起こったことを考えると、外国の学生たちの有するPC、インターネット、PCカメラ、ヘッドフォンマイクなどの環境改善や学生たちの機械操作への慣れなどが反映していると推される。

2.2.4 その他

その他、現在のシステムに関し、「プリントをしたかったができなかった」、「参加者全員の顔が映ればよかった」などの意見があった。

- ・パワーポイント資料をPRINTしたくてPRINTボタンを押しましたが、PRINTができなかったのが残念だった。ほかに問題はない。
- ・参加した学生たちの画像が、一度に一人しか見る事ができなかったことが、唯一、残念なことだった。

2. 3 遠隔授業の効果と課題

最後に遠隔教育後のアンケートの設問3、4から、遠隔教育の効果や課題について考察する。

2.3.1 効果

アンケートの設問3には大別すると、①日本語科目や専門科目の履修に関すること、②入国、入学、入寮などの手続きに関すること、③事前に教師や他の留学生と交流できたことの喜び、④遠隔授業実施に対する感動や感謝、といった4通りの内容が記載されている。

留学生たちは渡日前に様々な不安を抱きつつ、それをだれかに質問したり相談したりするということがなかなかできずにいることから、不安が増していることが見て取れる。しかしながら、入国から入寮・入学の手続き、日本語科目や専門科目の履修のしかたなどについて具体的な情報を提供することで、不安解消に大いに役立っていると言える。

①入国、入学、入寮などの手続きや留学生活面に関すること

- ・学校への行き方の案内などが役に立った。
- ・画面上のパワーポイントで具体的写真や説明を見ながら先生の説明を聞くことができ、わかりやすく理解できてよかった。日本留学を控え、気になることや心配していたことを詳しく教えて下さって非常にためになった。留学生の立場として、とても有意義なオリエンテーションだった。日本に到着し、しなければならない外国人登録証と通帳開設方法やその場所と位置まで写真入りで具体的

に説明して下さり、日本へ行っても一人でもできそうだと。その他、成田空港から東京都心まで行く方法、寮の施設、寮から学校まで行く方法、図書館利用方法などすべての内容がためになった。

- ・特に、各手続きについて詳しく教えてくださってとても役に立つと思う。
- ・来日前に持っていた、寮や学校での手続きなどに対する心配や不安が、ある程度解消し、とても心強かった。特に、パワーポイント資料を通して、ご説明をいただいたことが、一目で分かりやすくて良かった。

②日本語科目や専門科目の履修など学業面に関すること

- ・日本語の授業をはじめ、単位認定に関する内容を詳しく聞いた点が最もいい点であった。専攻の勉強と日本語の勉強をどのように両立するかが心配だったが時間割まで見せてくださり、自分なりに準備が可能となった。日本語能力試験対策授業があることもわかりよかった。
- ・日本語クラス案内などが役に立った。

またヴァーチャル空間ながら、留学後に接する教師から直接指導を受けたり、同じ時期に留学するほかの学生や既に留学中の留学生と交流したりすることにより、不安解消はもとより、留学準備や計画が具体化（可視化）したり、留学生活に期待や自信が持てるようになったりするなど、期待以上の効果をもたらしていることが読み取れる。

③事前に教師や他の留学生と交流できたことの喜び

- ・日本に行く前に他の国の学生達に会えてとてもよかった。担当の森山先生にも会えてお茶大の学生生活について色々知ることができてワクワクした。
- ・お茶大についての質問はほとんど解決した。そして、直接に先生や留学生の皆さんに会えることができて、本当に嬉しかった。
- ・先生と友達の顔を見られてよかったと思う。留学の前に（何の問題だとはいえないですが）色々気にかかる場所があったが、今は減った。

さらに何人もの学生が、このような企画を実施したことに対する感動、感謝を表明しており、こうした渡日前オリエンテーションが彼らにとって非常に有意義で役に立っていることがわかった。

④遠隔授業実施に対する感動や感謝

- ・オリエンテーションを受けて入国手続きから日本での生活まで多くのことが分かるようになって、日本に行くための心の準備ができて、とてもありがたいと思っている。
- ・これからの生活のいろいろなことについて、優しいご説明をいただき、とてもよかったと思っている。
- ・留学直前の不安感を取り除けるように、留学生のために詳しく説明して下さる先生に感動した。今回のオリエンテーションを受け、留学生活に対する心配や不安感がなくなり、私も頑張っていけるだろう、という期待と自信が持てた。留学生のため具体的なオリエンテーションをして下さった森山先生に心から深い感謝を捧げます。

2.3.2 課題

最後に参加学生から寄せられた要望に対する記述をもとに、今後の課題について考察する。設問4の要望に対する記述には「満足している」、「これで十分」と言う意見もあったが、要望としては、「クラブ活動」や「学会などの学術活動」、「寮の詳細な情報」、「生活情報」、「奨学金」などの提案が出ており、この点は今後の渡日前教育に役立てていきたいと思っている。また遠隔教育前に実施したアンケートのうち、今回の遠隔教育では扱えなかった、「地震などの安全情報」、「物価への不安」、「ビザ取得までのプロセス」、「入試情報」、「課外活動の情報」なども次回の遠隔教育実施の際に反映させていきたい。

- ・問題点はなし。ただ次回はクラブや学会に関する説明もあればと思った。
- ・交換留学生がもらえる奨学金について知りたい。
- ・ない。
- ・今回のオリエンテーション内容で十分だと思う。留学生の立場で気になっていた部分を全て解決して下さった。
- ・寮の近くに何かショッピングする所があるかについて教えてほしい。
- ・今回のオリエンテーション、本当にありがとうございました。皆さんに会うことを期待している。森山先生もお疲れ様でした。
- ・授業内容についてはとても満足している。ところで、寮についてはもうちょっと詳しい情報をいただけたらと思う。布団とカーテンの準備をするようにといわれたが、例えば、ベッドのサイズ（高さ、幅など）などを教えて頂けると、準備するときに便利だと思った。

3. 総合的考察

渡日前遠隔教育としては、例えば外務省が各国の在外公館を通して国費留学生を対象に現地で実施しているものがある。しかしながら、この場合、対象が国費留学生に限られ、圧倒的多数の私費留学生などはその対象となっていないこと、各受け入れ大学に関する個別で具体的なオリエンテーションまでは施すことができないことなど、その範囲は非常に限られている。本学が導入した渡日前遠隔教育は、ヴァーチャル空間とは言うものの、留学を予定している大学の教員及び既に留学生生活を行っている学生の話聞き、不安を抱えている問題について直接質疑応答ができ、来日前の不安解消や留学への意欲増進に非常に役立っていることがわかった。オリエンテーションは従来来日後に行われてきたが、留学生にとっては、来日前のオリエンテーションが必要であり、それに関してはこれまで留学生一人一人の努力にゆだねられていた。また来日する際には、留学生は自力で来日し、入寮手続きや入学手続きを開始しなければならないことが多かった。その意味でオリエンテーションを来日後だけではなく来日前にも実施できるようになったことの意義は大きいと思われる。

問題点としては、第一にまず高速インターネット環境が整っている韓国、台湾などの国々の留学生の場合には比較的参加が容易であったが、そうでなかった国々の留学生においては参加が難しかったこと、第二に、日頃PCカメラやヘッドホンマイクを使って、ビデオチャットなどを経験している学生には参加が容易であるが、そのような経験をしたことがない学生は世界を見渡せばまだまだ少なくなく、そのような学生たちには参加自体が難しかったり、参加ができてもし何らかのアクシデントが発生した場合に対処が

できなかったりする可能性があること、などを挙げることができる。ただ、今回の場合には2005年の場合に比べて、インターネットの普及により技術も向上し、学生もその使用に慣れてきているため、発生した問題はわずかであったことから、今後はこのような渡日前教育は容易に行われていくことが十分期待できる。

また授業内容はホームページにアクセスすればオンデマンドでいつでも見ることができ、復習も可能であると同時に、設備面などでライブクラスに参加できなかった学生も、その内容を知ることができるため、ライブクラスとオンデマンドの補完により最終的にはほとんどの学生に渡日前オリエンテーションが可能となっている。

このような遠隔教育は今回で3回目となるが、今回は教員による講義に加え、留学生により体験談なども語られ、教員からの講義とは異なった意味で不安解消につながったと思われる。

IT技術のめざましい発展の中で、ユビキタスな教育環境が整いつつあり、今後このようなインターネットを活用した遠隔教育はますます活用の度を高めていくことは間違いない。その意味で、本稿で紹介したこうした試みは、先駆的な教育実践として一定の評価を下してもよいであろう。

【付記】

本遠隔教育はお茶の水女子大学国際教育センター企画として、センターの予算により2005年度から開始されたものである。また教育効果を見るための事前事後アンケートは、同センターの加賀美常美代氏に作成をお願いした。この場を借りて感謝したい。

<引用サイト>

お茶の水女子大学国際教育センター <http://jslliocha.ac.jp/>

e 講師ネット（三洋電機ホームページ） <http://e-koushi.net/>

e 講師ネット（凡人社ホームページ） <http://www.bonjinsha.com/gva/>

<資料1> 渡日前教育の事前アンケートのおねがい

お茶の水女子大学国際教育センターでは、3月10日と16日に渡日前遠隔教育を実施します。これは新たに日本に来日し本学に入学する留学生が、日本での生活や学業をとどこおりなく開始できるようにするためのものです。

遠隔教育のよりいっそうの充実のために、みなさまに事前アンケートをお願いしています。なお、このアンケートは渡日前教育のよりいっそうの改善、及びそのための研究にのみ用い、それ以外で使用することはありません。プライバシーの保護などにつとめ、個人的に迷惑がかかることはありません。ご協力よろしく願いいたします。

2006年3月6日

お茶の水女子大学国際教育センター（担当 森山新）

まずは以下にお答えください。

- ① 国籍：
- ② 学資：私費 国費 交換留学生
- ③ 在学身分：学部研究生 大学院研究生 特別聴講学生 特別研究学生
- ④ 以前に日本に来たことはありますか：ある ない
- ⑤ ④で「ある」の方：滞在期間は 年 か月

渡日前遠隔教育の事前アンケート

1. 来日する前に、次の項目についてどのくらい心配ですか。次の1から5まで当てはまるところに○をつけてください。

1.....2.....3.....4.....5

全く心配ではない 少し心配だ どちらとも言えない やや心配だ 非常に心配だ

例) 試験やレポート・・・・・・例) 1...2...3...④...5

来日前の準備	1・・・2・・・3・・・4・・・5
成田から寮へのアクセス	1・・・2・・・3・・・4・・・5
入寮手続き、寮の案内 (入寮予定者だけ回答)	1・・・2・・・3・・・4・・・5
入学手続き	1・・・2・・・3・・・4・・・5
大学、大学生活について	1・・・2・・・3・・・4・・・5
履修の仕方	1・・・2・・・3・・・4・・・5
日本語などの授業	1・・・2・・・3・・・4・・・5
専門分野の授業	1・・・2・・・3・・・4・・・5
友人関係	1・・・2・・・3・・・4・・・5
自分一人で生活すること	1・・・2・・・3・・・4・・・5
指導教員との関係	1・・・2・・・3・・・4・・・5
学内の相談体制	1・・・2・・・3・・・4・・・5
自身の日本語が通用するか	1・・・2・・・3・・・4・・・5
その他 ()	1・・・2・・・3・・・4・・・5

2. そのほかに気になることや心配なことがありましたら、自由に書いてください。

＜資料２＞ 渡日前教育の終了後アンケートのおねがい

お茶の水女子大学国際教育センターでは、3月10日と16日に渡日前遠隔教育を実施します。これは新たに日本に来日し本学に入学する留学生が、日本での生活や学業をとどこおりなく開始できるようにするためのものです。

遠隔教育のよりいっそうの充実のために、みなさまに事前アンケートをお願いしています。なお、このアンケートは渡日前教育のよりいっそうの改善、及びそのための研究にのみ用い、それ以外で使用することはありません。プライバシーの保護などにつとめ、個人的に迷惑がかかることはありません。ご協力よろしくお願いいたします。

2006年3月16日

お茶の水女子大学国際教育センター（担当 森山新）

まずは以下にお答えください。

- ① 国籍：
- ② 学資：私費 国費 交換留学生
- ③ 在学身分：学部研究生 大学院研究生 特別聴講学生 特別研究学生
- ④ 以前に日本に来たことはありますか：ある ない
- ⑤ ④で「ある」の方：滞在期間は 年 か月

渡日前遠隔教育の終了後アンケート

1. 遠隔オリエンテーションが終わって、次の項目についてどのくらい心配ですか。

1.....2.....3.....4.....5

全く心配ではない 少し心配だ どちらとも言えない やや心配だ 非常に心配だ

例) 試験やレポート・・・例) 1...2...3...④...5

来日前の準備	1・・・2・・・3・・・4・・・5
成田から寮へのアクセス	1・・・2・・・3・・・4・・・5
入寮手続き、寮の案内 (入寮予定者だけ回答)	1・・・2・・・3・・・4・・・5
入学手続き	1・・・2・・・3・・・4・・・5
大学、大学生活について	1・・・2・・・3・・・4・・・5
履修の仕方	1・・・2・・・3・・・4・・・5
日本語などの授業	1・・・2・・・3・・・4・・・5
専門分野の授業	1・・・2・・・3・・・4・・・5
友人関係	1・・・2・・・3・・・4・・・5
自分一人で生活すること	1・・・2・・・3・・・4・・・5
指導教員との関係	1・・・2・・・3・・・4・・・5
学内の相談体制	1・・・2・・・3・・・4・・・5
自身の日本語が通用するか	1・・・2・・・3・・・4・・・5
その他 ()	1・・・2・・・3・・・4・・・5

2. オリエンテーションを受けてどのようなことが良かったと思いますか？
3. 今回のオリエンテーションの内容のほかに何か要望があれば書いてください。
4. その他、遠隔オリエンテーションについて何か問題があれば、次への改善のために指摘してください。
(紙面の都合上、内容は同じであるが、形式を若干変更して掲載した)